

## コウノトリが死亡しました

平成22年7月5日に豊岡市日高町山本放鳥拠点から巣立ちしたコウノトリ J0443 (2010年生れ、メス)は、同年9月29日に右脚の怪我(骨折)が確認され、捕獲し当公園に收容しました。脚以外は特に異常がなく飼育を継続していましたが、先月6月19日に状態が急変し死亡しました。

## 平成24年度 特別観察会「コウノトリとジオパーク」のご案内

コウノトリとジオパークのつながりについての話や野外コウノトリについての話の後、普段入れない非公開ゾーンでコウノトリを間近で観察しましょう。

- ◆実施日時：平成24年8月5日(日) 13:00~15:45
- ◆集合場所：県立コウノトリの郷公園 管理・研究棟 セミナー室
- ◆対象：小学生~一般 ◆定員：30名 ◆参加料：無料

\*詳細は、コウノトリの郷公園ホームページをご覧ください。直接当公園にお問い合わせください。

## 鶴見カフェのお知らせ

郷公園の研究員等とコウノトリについて気軽に話しあう鶴見カフェを、毎月第3日曜日の午後4時から豊岡市中央町のサンストークアベニュー内「なごみ茶屋」で行っています。

(飲物・ケーキ代500円程度が必要です。事前申し込みも受け付けています。詳しくは当公園のホームページ内お知らせ欄をご覧ください。)

## 平成24年度 定例観察会「ガイドウォーク」のご案内

毎月第3土曜日の午後1時30分から、ガイドウォークを行っています。

園内を歩きながら、生き物にやさしい施設の工夫や環境(コウノトリ育む農法)などの案内、園内の生き物観察、コウノトリの話等をしていきます。午後1時15分から正門前の掲示板横で受け付けています。歩きやすい服装でお越しください。事前申し込みも受け付けています。詳しくは当公園のホームページ内お知らせ欄をご覧ください。

## コウノトリの個体数 (H24.6.30現在)

### 1 飼育コウノトリの個体数

区分	オス	メス	不明	計
県立コウノトリの郷公園	30	34	1	65
附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター	15	16		31
計	45	50	1	96

### 2 野外にいるコウノトリの個体数

区分	オス	メス	不明	計
放鳥コウノトリ	7	10		17
野外繁殖により増えたコウノトリ	9	19	5	33
野生個体		1		1
計	16	30	5	51

\*巣内のヒナの数は入っていません。

コウノトリ通信に関するご質問・ご意見等がありましたら下記までEメール又は電話等でご連絡ください。

問い合わせ先  
兵庫県立コウノトリの郷公園  
〒668-0814 豊岡市祥雲寺字ニヶ谷128番地  
TEL: 0796-23-5666  
FAX: 0796-23-6538

E-mail : kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp  
ホームページ : http://www.stork.u-hyogo.ac.jp  
開園時間 : 9:00~17:00  
休園日 : 毎週月曜日(休日に当たるときはその翌日)・12月28日~1月4日

# コウノトリ通信

(題字：山岸哲園長)



兵庫県立コウノトリの郷公園

平成24(2012)年7月1日発行

No.2

## 野外で巣立ったコウノトリ同士のペアによる

## 国内初(野外第3世代)のヒナの確認



写真1 福田巣棟にいる親子

平成24年5月15日、豊岡市福田地区人工巣塔内で、伊豆2009年生れ個体(オス)とJ0004(2008年生れ、メス)ペアの餌の吐き戻し行動によりヒナの孵化が推定されました。同22日には、ヒナの姿が確認されました(写真1)。この孵化は、野外で巣立ったコウノトリ同士のペアで国内初の事例となります。

## 今年も巣立ちが始まりました

豊岡市城崎町戸島地区人工巣塔において、J0391(2004年生れ、オス)とJ0294(2001年生れ、メス)ペアのヒナが2羽巣立ちました。1羽目が6月7日午前10時13分、2羽目が同10日午後0時9分に確認されました。

また、同市伊豆地区人工巣塔においても、J0381(2004年生れ、オス)とJ0296(2001年生れ、メス)ペアのヒナが2羽巣立ちました。1羽目が6月11日午後2時31分、2羽目が同13日午後3時35分に確認されました。

## 東京都多摩動物公園からのコウノトリの移動

5月29日、豊岡盆地個体群の遺伝的多様性を高めるとともに性比バランスの改善を目的に、東京都多摩動物公園から、2羽のコウノトリが当公園に搬入されました(写真2)。

移動したコウノトリの個体番号は、J395(2005年生れ、オス)とJ411(2006年生れ、オス)です。



写真2 搬入された個体

## コウノトリ野生復帰グランドデザイン(一部抜粋)

### 【目標設定~短期目標「安定した真の野生個体群の確立とマネジメント」~】

(1) 豊岡盆地個体群と飼育個体群の維持

- ① 平成22年に繁殖した7ペアのうち2ペアの雄が死亡したこと及び現在野外に生息するフローターは繁殖齢に達しない若鳥であるため、雄の成鳥の放鳥が早期に必要なため。
- ② 放鳥にあたっては、他施設との交換等により、郷公園の飼育個体群の遺伝的多様性を高め、維持するなかで適切な成鳥を選ぶことが必要である。また、この際には、先に述べた核DNAの解析研究を同時並行的に進める必要がある。

\*このグランドデザインは、コウノトリの郷公園ホームページよりダウンロードできます。

# 研究員のないしょの話

このコーナーでは、郷公園の職員しか語れない、現場のできごとを紹介します。

## コウノトリの餌生物としてのトノサマガエル

兵庫県立コウノトリの郷公園 田園生態研究部 研究員 内藤和明

コウノトリの子育ての最盛期である5月から6月にかけては、田んぼに水が張られカエルの鳴き声が響く季節でもあります。田んぼで繁殖するカエルには、早春に産卵するアカガエル類、ニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエル、ヌマガエルなどがありますが、比較的体サイズが大きいトノサマガエルはコウノトリの餌生物として重要な役割を果たしているようです。トノサ

マガエルの大きな個体は20グラム程度、特大の個体ではその2倍の重さがあります。コウノトリは体が大きく大食漢ですから、このような大きな餌が比較的簡単に取れば野外で暮らすコウノトリにとっては望ましいことでしょう。飼育下のコウノトリの場合1日450グラム程度の餌を食べていますし、野外で繁殖している時期のコウノトリは自分自身が食べる餌とヒナに与える餌を両方取らなくてはなりません。



写真3 昆虫などを餌にするトノサマガエルは、一方でコウノトリの餌生物でもあり、食物網の一部を構成している。

成体だけに限りません。コウノトリがヒナを育てる時期はちょうどトノサマガエルの幼生(オタマジヤクシ)が水田にたくさんいる時期でもあります。コウノトリはオタマジヤクシもよく食べています。トノサマガエルの幼生は他のカエルよりも遅めの時期に変態して成体(カエル)になります。そのため、田植えをした田んぼから最初に水を抜く「中干し」が、成体になる前に行われると、

水田の中にいた幼生は水路に流れ出るか、水が無くなった田んぼの中で死んでしまいます。豊岡盆地やその周辺で広がりを見せている「コウノトリ育む農法」による米作りでは、「中干し」をできるだけ遅くすることで、トノサマガエルが成体になるまで田んぼの水を保つようにしています。同じ時期にフナやナマズが産卵し稚魚が見られる水田もありますが、豊岡盆地全体からすると現在は一部の場所に限定されているようです。

豊岡盆地では有り触れた生き物のように感じられるトノサマガエルですが、全国的に見ると絶滅危惧種に

指定されている府県が少なからずあります。兵庫県のお隣の京都府では要注目種、岡山県では



写真4 中干しによって水路に流れ出たトノサマガエルの幼生。田んぼ1枚分でも相当な量となるだろう。

希少種と評価されています。こうして見るとトノサマガエルが普通にいてコウノトリの餌生物として食べられていることは、豊岡盆地の自然環境が比較的良好に保たれている証とも考えられます。コウノトリが生息できる環境が豊かな自然を象徴していることを示す一例と言えるかもしれせん。

## 郷公園で確認したいきもの (5月1日~6月30日)

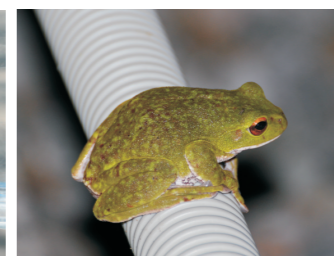
[貝類] カワナ マジミ マルタニシ	アサヒナカワトンボ アメンボ イトトンボの仲間のヤゴ ウスズビカ(幼虫) オオシオカラトンボ オオミスアオ ガガンボ((幼虫) キンヤンマ ケラの仲間 ゲンジボタル コイムシの仲間 コオニヤンマのヤゴ コサナエ スジエビ コシボソヤンマのヤゴ コシマゲンゴロウ コブシハハチ(幼虫) ゴマケンモン コヤマトンボのヤゴ シオカラトンボ シオヤトンボ ショウジョウトンボ タイコウチ ハグロトンボ ハツチョウトンボ ハルゼミ ヒメスズメバチ ヘイケボタル マイマイガ(幼虫) ミスズマン モンズスズメバチ	[両生類] ウシガエル シュレーゲルアオガエル ツチガエル トノサマガエル ニホンアカガエル ニホンアマガエル モリアオガエル(卵塊) ヤマアカガエル	ヒヨドリ フクロウ ホオジロ ホトギス メジロ ヤマガラス	コナスピ コモチマンネングサ サワオグルマ シロツメグサ タチイヌフグリ チチコグサ ツルマンネングサ トウバナ トクダミ ニガナ ニワゼキショウ ノアサミ ハハコグサ ヒシ マツバウンラン マムシグサ ミツバツチグサ ムラサキサギゴケ モウセンゴケ ヤマハシエンノウ ワスレナグサ
[クモ類] アシナガクモ ギンメツギクモ コガネクモ ゴミクモ	[甲殻類] アメリカザリガニ スジエビ ミナミヌマエビ モクスガニ	[鳥類] アオサギ イカル エナガ カルガモ カワラヒワ キセキレイ キビタキ コウノトリ(野生) コガモ コゲラ ゴシアカツバメ サンコウチョウ サンショウクイ シジウカラ ジョウビタキ スズメ セグロセキレイ ダイサギ ツバメ トビ ハンボソガラス	[哺乳類] ニホンイノシシ(土耕跡) ニホンジカ	[爬虫類] アオダイショウ スッポン ニホンイシガメ ニホンカナヘビ ニホントカゲ マムシ ヤマカガシ
[魚類] オイカワ カマツカ カワムツ カワヨシノボリ タモロコ ドジョウ ドンコ ムギツク メダカ モツゴ ヤマトシマドジョウ	[昆虫類] アオスジカミキリ	[植物 / 主に 開花中のもの] 《草本》 アマドコロ イフキジャコウソウ オオバコ オオハタネツケバナ オウタチカタハミ オニタビラコ オヘビイチゴ カタハミ ゴウソ	《木本》 ウメトドキ ガマズミ タニウツギ フジ ホオノキ ヤマボウシ	



オイカワ



ムギツク



モリアオガエル



モリアオガエルの卵塊



アサヒナカワトンボ(\*)  
(\*) 分類の見直しにより、カワトンボ→アサヒナカワトンボとなりました



コシマゲンゴロウ



ウメモドキ



ワスレナグサ